

現地レポート
秋田県八峰町

初めてのキャベツ栽培にも太鼓判！
スターホルムで安心レシピ



幻のキャベツ「北ひかり」を首都圏に出荷している全国唯一の産地が八峰町です。生産者の福士保洋さんは、ホルム窒素入り肥料を使うことで、この「北ひかり」をどんな条件の畑でも、そして、農業の初心者でも、安定して栽培することが出来るレシピ作りに取り組まれています。肥料に対する感触や思いについてお聞きしました。



■スターホルム33号

「出羽青岩アグロ(株)の大谷さんと相談して、昨年からホルム窒素(緩効性窒素)入りの『スターホルム33号(10-10-10 苦土3)』を元肥に使うようになりました。」
「以前元肥に使っていた肥料のチツソ成分は12%で、施肥量は10アル当り120キロでした。スターホルムのチツソ成分は10%ですが、施肥量は以前の肥料と同じにしたんです。施肥チツソ量が少なくなるため、大丈夫だろうかと心配でした。」
生産者の皆さんは毎年六月上旬に畑を巡回して生育状況を確認します。「施肥量は少ないのに利用率が高いためか、生育が非常に旺盛。今まで何年も『北ひかり』を栽培してきましたが、これまでの生育とは全く違っていました。大きくて色が濃い、とにかく勢いがあると、皆びっくりしていました。」
収穫時のイメージも、今までと違っていたそうです。
「いつも出来の良い所は大玉になって株腐病が発生し、収量が落ちるケースがありました。一方、条件が悪く、いつも出来が良くない所でも結果が良かった。明らかにこれまでの肥料とは効き方が違っていま

■幻のキャベツ『北ひかり』

「『北ひかり』という、サワー系の品種で、特徴は葉が柔らかく、とにかく甘い。ただ、腐り易いので栽培が難しい品種でもあります。」
秋田県八峰町で栽培されている『北ひかり』は栽培に苦労が伴い、首都圏に出荷している産地は、今ではここ八峰町だけだそうです。
「ここでもこの品種の栽培は一旦途絶えたんです。でも関東のバイヤーからどうしても欲しいと頼まれて。仲間に声をかけて、皆で取組むということで復活させました。」



収穫間近の『北ひかり』。

■1年目、1作目から結果が出せるレシピを……

「追肥はなかなか適期に出来ない。そこで、スターホルムと、土改材として投入している石灰窒素を組み合わせれば安定した肥効が得られ、追肥を削減することが出来るのではないかと思います。」
福士さんは一年間スターホルムを使ったことで、追肥を削減出来る感触を得たそうです。
「省力化できれば、他の作物管理のための時間が出来る。複数の作物を栽培している我々には大きなメリット。」



一つ一つ、手作業で丁寧に収穫していきます。

■追肥にはタイミングがある

「昨年まで、元肥には有機入りの配合肥料を使い、追肥は定植の二週間後に一回目、さらに二週間後に二回目と、生育状況に合わせて行なっていました。」
定植は四月下旬、収穫は六月二十日頃から始まります。
「追肥にはタイミングがあります。そのタイミングを逃すと玉が大きくなりすぎたり、裂球の原因になります。ただ、生産者の都合や天候の影響で、タイミング良く追肥が出来ないことも多いのです。」



定植後約2週間。1回目追肥施用時期の圃場。



【編集後記】
『やってみよう』と思って始めた後継者が、『やって良かった』と思えるような経営手法を見出し、実践していかなければいけない。…農業に限らず、仕事に対する姿勢として肝に銘じるべき言葉だと思います。色々なことを考えさせられた取材でした。福士さん、ありがとうございました。

「今の農業経営は、失敗が許されない状況です。しかも、何年か時間をかけて栽培を勉強する余裕はない。一年目から実績を上げなければいけない。今は『職人技』と言うようなものを求めていける時代ではないんです。」
「圃場の条件に左右されず、農業を始め一年目、または初めてキャベツを栽培する時でも、しっかりと実績が出せる。我々ベテラン農家は、誰でも最初から実績が出せる栽培方法を確立しなければいけない。スターホルムは、そんなレシピを確立するために不可欠な肥料だと思います。」
私たちは、省力化だけでなく、緩効性肥料をこんな目的で活用しようとする生産者の話を初めて聞きました。本当に貴重なお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。